

非核平和都市を宣言

湾岸戦争の終結や、米ソ戦略兵器削減条約（START）の調印など、国際的に平和への気運が高まっている中、終戦記念日の八月十五日、本市は非核平和都市宣言を行いました。これはカルチャーセンターで行われた戦没者追悼式に先立って行われたもの。滝沢市長が高らかに宣言文を読み上げ、「非核平和宣言市」と書かれた懸垂幕を披露しました。

宣言では平和への願いを込め、「われわれは地球を守り、人類を愛し、郷土の安全と平和を子孫に伝える責務がある」として、非核に対する強い決意を表しています。また、市長はあいさつの中で、「この宣言を私たち自身のものでしっかりと心にかけて、一人ひとりが平和への地道な努力を続けてほしい」と訴えました。

六月定例会市議会でも「非核平和都市宣言に関する決議」として満場一致で決議。非核三原則の完全実施を国に求め、人類の永遠の平和を樹立するために核兵器廃絶の世論を喚起することなどを決議しています。

なお、県内の市町村では長岡市など五市七町（五月一日現在・県地方課調べ）が非核平和都市宣言を行っています。

非核平和都市宣言

平和を希求するは、人類普遍の哲理である。特にわが国は世界唯一の被爆国であり、非核に対する国民的関心は他国に先んずるは当然である。国会において、非核三原則が決議されて二十有余年を数えるが世界の情勢は、核保有が現実のものとなっていることはまことに遺憾である。われわれは地球を守り、人類を愛し、郷土の安全と平和を子孫に伝える責務がある。非核に対して、白根市議会全員一致の決議が行われ、市民の願いもまた一致するものである。広島、長崎に原爆が投下されて以来、既に四十六年が経過した。決意を新たに、わが白根市民の平和への願いをこめて、ここに白根市は「非核平和都市」を宣言する。

平成三年八月十五日

新潟県白根市



▲宣言文を読み上げる滝沢市長

北中の校章決定

来年四月に開校が予定されている白根北中学校の校章が決まりました。七月九日、校章選定委員会を開き、市民から寄せられた三百五十五点の作品の中から、優秀作品十一点を選出。さらにその中から三点に絞り、八月七日、伊藤茂太さん（五六の町・七十九歳）の作品を校章とすることに決定しました。

校章は白根北中学校の「北」を凶案化したもので、全体に円みを持たせ、心の豊かさが表現されています。下の部分の厚みは大地に根を張ったたくましさを表し、「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間」の姿を表現しました。また、「北」を人間の形にかたどり、手を差し伸べて進んで行動する自主的精神と、新しいものを作り上げていく創造の姿を表現。それが「中」を囲んで友愛の心と協力し合う姿を表し、未来に向かって躍動し、発展する北中の未来像を表現したものとなっています。

新しい中学校のイメージにふさわしいものにしていきたいと思っています。



▶白根北中学校校章

新しい園舎が楽しみ

白根保育園引越し

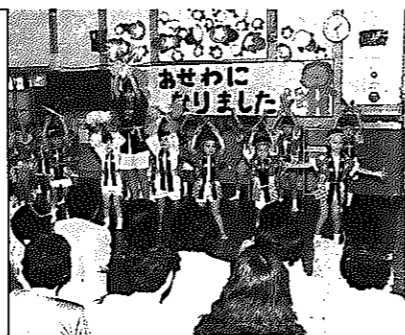


現地改築が予定されている白根保育園の引越し作業が八月十日、十一日に行われました。

保育園児の父母の皆さんや保育園職員、福祉事務所の職員など約四十人が作業に当たり、荷造りされた遊具や絵本、調理器具などを手際よくトラックに積み込みました。

園児たちは八月十二日から園舎が完成する三月中旬まで、中央保育園わきのつくし園に通園しています。

福祉事務所では「新しい保育園は床や壁面に木を多く使い、温かみのある設計になっていきます。三月中旬に完成予定なので、



▶7月20日、卒園児の会が開いた園舎をしのぶ会。44年間子供たちを見守ってくれた園舎にさよならを

卒園式は新しい園舎で迎えることができるでしょう」と話していました。

日赤から救急車が配置

八月一日、日本赤十字社（日赤）新潟県支部から本市に救急車が配置され、急病や交通事故など、不測の事態に備えることになりました。

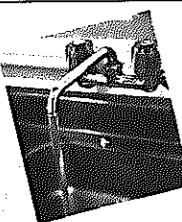
救急車は早速、白根地区消防本部に配置されました。同本部の救急車保有台数は五台。一日当たり平均出動回数は約二・五回で、使用頻度が高い上に傷みも激しく、これまでは修理しながら対応してきたというのが実情でした。

日赤新潟県支部では事業の一環として毎年県内の市町村に五〜六台の救急車を配置しています。今回配置されたのはそのうち

ちの一台で、日赤では「皆さんからいただいた費用で、救急車の配置をはじめ、医薬品の援助などさまざまな事業を行うことができます」と市民の皆さんの協力を感謝していました。



水に流せない水の話



「水」のシーズンもそろそろ終わりという季節ですが、飲料水をはじめ、いろいろな所で何気なく使われている「水道水」にスポットを当ててみました。

●白根市の水道水源は？

私たちが毎日飲んでいる水道の水はどこから来ているのでしょうか。白根市の水源は信濃川の分流「中ノ口川」で、取水地点は戸頭地内です。そこで取水された水は戸頭浄水場に送られます。

●水はどうやって送っているの？

取水された水は戸頭浄水場で泥などを取り除き、ろ過し、消毒。きれいで安全な水になります。浄水能力は1日当たり最大25,000㎥です。浄水場で作られた水は、配水管で各家庭に届けられます。白根市には山や高台がないので、配水ポンプで圧力調整して送ります。配水管の総延長は約257kmで、上越新幹線の燕三条～大宮間とほぼ同じ距離になります。

●家庭で使う水の量はどのくらい？

戸頭浄水場が1日に送り出す水道水は18,208㎥（平成2年度）です。この中には家庭だけではなく、学校、病院、工場などで使われるものも含まれていますが、給水人口1人につき、1日に441ℓもの水が使われていることとなります。これは20ℓ入りポリタンクで約22杯分。灯油を持ち運んだ人なら分かるでしょうが、大変な量と重さになります。

●川の水を大切に！

白根市の水需要の伸びは、人口の増加、核家族化、水洗便所の普及などで、今後さらに大きくなるでしょう。いつか、もっと大きな、おいしい水を作れる浄水場が必要になるかもしれません。

私たちの大切な飲料水を供給してくれる信濃川、中ノ口川。この川の水が汚れては大変です。私たちみんなで信濃川、中ノ口川の水を大切に、水質を守っていきましょう。

